



第一学年集会講話要旨

2019. 4. 11

皆さんこんにちは。みなさんの集会への参加態度が素晴らしいです。

まず、集会開始5分前に集合完了していました。そして、学年主任の諸注意から私の話が始まるまで、私語が全くなく、全ての生徒の視線が話し手に向けられています。みなさんにとっては、当たり前のことかも知れませんが、素晴らしいです。これから話そうとしている私も嬉しくなっていました。

現在、科学技術が、もの凄い早さで進化を遂げています。私が子供の頃に見たマンガの世界、言い換えれば空想の世界にあったものが、今は現実となって私たちの身の回りにあります。スマートフォンやクルマの自動運転、ドローン、人工知能、3Dプリンタなどはその代表例です。人間の脳が考えたものが現実のものになっています。人の想像力（創造力）がいかに優れているか、力を持つかを示しています。実現させようという思いが強ければ強いほど、実現する可能性が高くなるのです。

私がこの学校で、陸上競技部の顧問をしていたとき、同じような身体能力があっても、「思い」の強さで結果が異なる場面を何度も見ています。皆さんの生活においても、考え方や行動によって、結果が決まっていくことが多いと考えて下さい。もちろん、全てが思い通りに行くわけではありませんが。

この本は、ジェームズ・アレン作「原因と結果の法則」です。この本によれば、人が行動を起こすときには、何かしらの「思い」を持ち、その思いに基づいた行動をします。それが後に結果となって現れるということです。それは当たり前のことですが、大抵の場合、人はその当たり前のことに気づくのは結果が出てからなのです。それならば「よい結果」を出すために「よい原因」を作ればいいのです。

「よい思い」を持つと「良い結果」に繋がり、「わるい思い」を持てば「悪い結果」になる、と述べています。自分が、どのように行動すればいいのかがわかりますよね。マイナスでなくプラスの結果が出るようにしていけば良いのです。そういう行動や思考の習慣を作りましょう。プラスの思考を繰り返すことで前向きな行動をとれるようになり、豊かで実りのある高校生活が送れるのではないかと思います。高校生活のスタートラインに立った皆さんには是非「よい思い」を持つことを心がけて欲しいと思います。

